

「根瀬部棒踊りの伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立知根小学校

2 学年・人数

小学3年 1人, 4年 1人, 5年 2人, 6年 1人 計5人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

発表・出演前の3か月間, 週3回程度 根瀬部公民館

(2) 発表の日時・場所

イベント等に出演依頼があったとき。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

根瀬部棒踊り (ねせぶぼうおどり)

(2) 由来

400年ほど前, 薩摩藩による琉球王朝遠征の時に, 奄美に立ち寄り教えたのが始まりといわれている。一時消滅していたそうだが, 明治41年に根瀬部の青年たちが, 大和浜集落に伝わる棒踊りを「井原甚四郎」という人物から習い, 復活したといわれている。

現在, 奄美大島の中で残っているところはほとんどないが, 鹿児島県内各地に伝わる棒踊りと一連のつながりがあるといわれている。

(3) 構成等

8~12人の男子で構成され, 男性2人が「白帆」の歌を唄い, 白い着物に赤いたすきをした組と黒い着物に白いたすきをした組と二手に分かれ, 六尺棒・三尺刀・なぎなた・鎌を持って踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

根瀬部トンネルの壁画ともなっており, 地域住民にとっても大切な文化遺産として伝承しようという願いが込められている。現在では, 青壮年団を中心とした「根瀬部棒踊り保存会」を組織し, 伝承に努めている。

昨年度は奄美復帰60周年を記念し, 23年ぶりに本校の運動会・学習発表会において披露された。子どもたちも, 幅広い年代の人と接する機会であり, 棒踊りについて学ぶだけでなく, 地域の歴史や文化を継承しようと努力してい

る姿を間近で見ることにより、郷土を愛する心情が培われる場となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

しばらく活動の機会がなかったが、唄者の高齢化も進む中、棒踊りを継承・保存していくために、若い世代の参加が不可欠である。父親の練習に連れられ、大人の踊る姿に小さい頃から自然と憧れをもって育った子どもたちが、小学生になると棒踊りの練習に加わる。子どもたちは、踊りを覚えることに苦労しながらも、だんだんと道具を使った動きやかけ声の迫力に魅了されていく。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【 発表の様子 】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 棒踊りを体験して、根瀬部の大切な伝統として、自分にとっても大事なものになった。（参加児童）
- ・ 棒踊りの迫力も素晴らしく、そこで踊る我が子たちの姿にとっても感動している。（保護者）
- ・ 使われている道具の巧みな動かし方に、勇ましさと迫力を感じた。また、一方で神様への奉納する踊りであることから、神聖さも感じた。（教員）
- ・ 今後は、途絶えることがないように、地域内での発表にとどまらず、学校とも連携を図り、発表の機会を広く求めていくことで、継承していきたい。（保存会）